





地域社会を力強く支える城南信用金庫

城南信用金庫は、AI、サステナビリティ、そして地域との連携を通じて、日本の中小企業を支える「地域第一」の使命をさらに発展させている。

By Daniel de Bomford, Bernard Thompson and Arthur Menkes.

地域社会が力を合わせるとき、その可能性は計り知れない。80年前、東京が戦後復興の途上にあった時代に、城南信用金庫はその原点を築いた。信用金庫とは、地域住民や中小企業にサービスを提供し、価値を地域へ還元することで、地域経済を支える協同組織の地域密着型金融機関である。

理事長の林稔氏は、同金庫の使命は相互扶助の精神と地域への価値還元に根差していると語る。「それが私たちの基本理念であり、共創への取り組み、提供する付



加価値、そしてさまざまなサービスのすべてに反映されています。」

2026年、城南信用金庫は新たなスローガンとして「地域とコミュニティのプラットフォームを目指す」を掲げた。同金庫は、金融という従来の枠組みを超えて、人と企業を結び付け、単なる金融機関から地域をつなぐ存在へと役割を広げている。金融サービスに加え、ビジネスマッチング、DX、人材、サステナビリティ、そして外部パートナーとの連携を活用し、地域課題を解決するためのインフラとしての役割を果たしている。

その使命を最も象徴する取り組みが、「よい仕事おこしフェア」である。このイベントは、全国の信用金庫が一堂に会し、対面イベントとオンラインネットワークを通じて、地域や業種を超えた企業同士のマッチングを実現するプラットフォームとなっている。2012年、東日本大震災を受け、「地域活性化」と「震災復興支援」をテーマに始まったこの取り組みは、昨年、東京ビッグサイトに全国から24,000人以上が集い、4,000件を超える商談を創出した。

デジタルトランスフォーメーション（DX）の時代においても、城南信用金庫は地域の連携という精神を大切にしている。同金庫は、生成AIの活用を目的とした信用金庫共同研究プロジェクト「GEN × Shinkin Lab」を主導している。林氏は、「他の信用金庫と共同で取り組みを始めた理由は非常にシンプルです。それぞれの信用金庫が同じ作業を重複して行い、不必要な負担を抱えるのではなく、一緒にできることは一緒に進める方が、はるかに速く前進できるからです」と語る。

この取り組みは、京都中央信用金庫と城南信用金庫による連携から始まり、現在では37の信用金庫へと広がっている。多くの金融機関が協力することでイノベーションのスピードが高まり、城南信用金庫自身もデジタル技術やAIに関する高度な社内能力を培ってきた。中小企業に最も近い金融機関として、これらの能力は、企業のAI導入やDX推進を支援する最適なパートナーとしての役割を果たしている。

城南信用金庫は、サステナビリティの分野でも自ら率先して行動する姿勢も示している。同金庫は、日本の銀行業界で唯一RE100に参加している金融機関であり、所有する支店や事務所で使用する電力のほぼすべてを再生可能エネルギーへ切り替え、残る分はJクレジットによって相殺している。この実績は、サステナビリティ・リンク・ローン、省エネルギー、温室効果ガス排出削減、そして脱炭素への移行計画に取り組む中小企業を支援するうえで、高い信頼性につながっている。

さらに城南信用金庫は、日本アイ・ビー・エム株式会社との連携により、日本アイ・ビー・エム、株式会社日立製作所、アマゾンウェブ サービス ジャパンが推進する共創フレームワークを活用し、地域活性化に向けた新たなサービス創出の可能性を探る取り組みを開始する予定である。

利益を最優先する金融が重視されがちな業界にあって、城南信用金庫は地域課題の解決と相互扶助を重視する姿勢を貫いている。林氏は、「信用金庫の本質とは、地域のために何ができるかを問い続け、それを具体的な行動へ移していくことです」と語る。「それを着実に実践していけば、お客様は私たちに共感し、信頼を寄せてくださり、その結果として自然に取引も広がっていくのです。」



「私たちの使命は、地域の皆さま、そして地域社会全体に価値を還元することです。」

理事長　林 稔,
城南信用金庫
www.jsbank.co.jp

城南信用金庫

